

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401228		
法人名	株式会社ホープブライト		
事業所名	グループホーム南風		
所在地	長崎県南島原市有家町山川337		
自己評価作成日	令和5年5月3日	評価結果市町村受理日	令和5年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年7月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、入居者様に対して、まず第一に清潔感があり、生活しやすい住環境を提供しております。朝礼の中で、「挨拶と掃除、身につけよう整理整頓、社内・外の美化は自分から」という会社理念を全職員で唱和しております。個々の健康管理を始め、身体能力や心身の状態に応じて効果的な個人ケアを行い、自己決定を尊重した自立支援に向けた取り組みを行っています。例えば、日常生活動作面において、時間はかかっても、自分でできることは自分で行って頂いております。一人一人の入居者様に尊厳のある日々を送って頂けるよう支援し「入居者の個性を尊重し、QOL(生活の質)を高めることにより、生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」ことを施設理念に掲げ、「その人のペースに合わせてゆっくりと」を介護目標とし、全ての入居者様が毎日笑顔で過ごして頂けるよう職員一同、心のこもった介護をさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を筆頭に職員が明るく笑顔で入居者に対応している姿が窺えるホームである。毎月発行するホームだよりには入居者の表情が分かる写真を載せ、日々の生活状況や健康状態等を記載した手紙と共に家族へ送付しており好評を得ている。協力医が近隣にあり、定期的な往診と夜間帯や緊急時にもすぐに連絡し対応できる態勢を整えており、入居者の健康状態に変化があった場合や定期受診以外の受診時には家族へ報告することで家族の安心感に繋がっている。食事は手づくりで、職員が調理して提供している。訪問調査日は七夕の天の川と星の形を彩ったちらし寿司が食卓に並んだ。ホーム近隣の農家の方からサツマイモや玉ねぎなど畑で収穫した野菜の差し入れがあり、旬のものを調理して食事を提供している。「その人のペースに合わせてゆっくりと」を介護目標として取り組まれており、家族からの信頼も厚く、安心して入居できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」を掲げ管理者と職員は、会議や日々のミーティングを通し地域の一員としてその人らしく関わりを保てるグループホームとして実践に繋げている。	「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」を理念として掲げ、ホーム内に掲示すると共に、職員が毎日朝礼時に唱和し、共有を図っている。近隣の中学校や保育所との関わりを継続しながら、入居後も本人が安心して生活ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、近隣の保育園から餅を頂いたり、夏祭りに参加していた。現在は、散歩中の保育園児と会話したり、散歩に出かけた際に出会う方や、施設周辺の畑で農作業中の方と挨拶を交わしたりしている。	コロナ禍前は、近隣の中学校の福祉体験受け入れや、保育園から餅を頂いたり、夏祭りに参加していた。解除後の支援に向け現在は散歩中の保育園児と会話したり、隣接する畑で作業する農家の方にお茶を出したり、草取りを手伝うなど、コロナ禍でも可能な範囲で交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られるご家族様やご親族様、友人の方々や、近隣の方々との交流、2ヶ月に1回の運営推進会議などにおいて、事業所として認知症の人の理解や支援方法をわかりやすく伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回実施し、入居者様やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告に対し、各委員、ご家族代表から積極的なご意見や質問を頂き、話し合いを通してサービス向上に活かしている。	今年度の運営推進会議は対面で実施できており、地域や家族代表の方も出席している。会議ではホームで実施した行事や研修内容も報告し、意見をj得ている。避難訓練を実施した際にも会議に報告している。遠方の家族には議事録を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者様とは、日頃から連絡を密に取り、運営推進会議にも参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。	市の担当者が運営推進会議に参加し、ホームの現状を伝え、情報交換を行っている。管理者は法令や制度の内容、介護報酬請求に関する事項等について、行政が行う集団指導に参加し、サービスに活かすよう努めている。市やグループホーム連絡協議会が主催する研修会にも積極的に参加し協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、独自の身体拘束防止マニュアルが定めてあり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会やミーティング等で随時職員周知を行い、職員全員が正しく理解している。運営推進会議においても議題に挙げている。	ホームでは年間研修計画に基づき各種研修を実施しており、そのうち年に2回は身体拘束に関する内部研修を開催している。訪問調査時において、身体拘束を実施している入居者は見受けられない。職員は入居者へのコミュニケーションのとり方に留意し、ヒヤリハットを記入したり、気になった場合は職員が互いに注意しながら、入居者支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で、高齢者虐待防止の研修を行い、虐待防止の観点から、職員間で互いに虐待が起きる理由をディスカッションしている。又、入居者側の気持ちを考えることで職員倫理の自己啓発と虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員に周知徹底を行っている。入居者一人一人の人権尊重と多様性の時代である事を伝えると共に、入居者主体のケアの重要性を意識した支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等の際は、理解しやすい言葉で十分な説明を行い、入居者様やご家族様等の不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図り、契約を締結している。又、解約の際も同様に、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回のユニット会議におけるアセスメントを家族様へ説明する中で、意見や要望をお伺いし、又ご意見箱の設置、苦情相談窓口やその他の情報を掲示し、意見や要望を運営に反映させる体制を整えている。	入居時に家族へ外部の苦情相談窓口について説明している。これまで外部の苦情に相談に至ったケースはない。毎月、担当者が入居者個々のアセスメントシートを作成し、家族へ本人の状況を伝え、その際に家族から意見を聴取している。毎月発行するホームだよりには入居者の表情が分かる写真を載せ、日々の生活状況や健康状態等を記載した手紙と共に家族へ送付しており好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、1日2回の申し送り時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へ繋げ運営に反映させている。又、根拠や背景に何があるのかを相互が理解し認め合うことで風通しの良い職場環境の改善にも繋げている。	職員の子どもの急な休みには職員同士が協力し合い、ホームの勤務体制を調整している。年次有給休暇の消化もできている。管理者はミーティング等を通じて職員から意見を聞き、必要に応じて本社と協議し運営に活かしている。エアコンの温度調整に関し、職員より意見が挙がり、代表者や管理者が職員意見を汲み取り運営に反映させた。職員の資格取得にも勤務シフトを配慮するなどバックアップ体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況、研修会への参加状況の把握に務め、人員確保や労働時間の改善、勤務交代等職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の資格取得の奨励や研修などを計画的に行い、必要な研修には勤務内や有給休暇をあて研修を受ける機会を確保している。又、経験を多く積んだ職員が新人職員を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し、同業者同士のネットワークづくりや意見交換、勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望時、本人様と面会する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、できる限り本人の安心が確保できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、ご家族様と面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、入居希望者の快い環境作りやご家族の安心が確保できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様と面談を行い、その方に最良と思われる支援を検討し、その時必要とされる支援を見極め援助、本人様、ご家族様の希望に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の尊重を第一に考え、先人の知恵や料理の美味しい食べ方、植物の名前や育て方等を教えて頂いたり、食後のお盆、食器拭きや洗濯物たたみ等を一緒に行い、職員も入居者様と同じ目線に立ち、喜怒哀楽をともにし、支えあえる関係を持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の施設での生活状況や相談事、悩み事等をご家族様へ報告し、互いに離れた場所で生活されていても本人様とご家族様の思い、関係を大切にしながら、共に本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所への外出、交流機会の減少は否めないが、回想法や入居者様に寄り添い共感し傾聴することで、生きる喜びや楽しみ、生きがい作りに繋げている。	これまでのコロナ禍により、馴染みの方との面会は玄関前で実施したり、外出や地域交流も自粛した。行動制限の緩和に伴い、近隣のショッピングセンターへの買い物や友人との交流など関係継続の支援に繋げている。職員は回想法を用いながら入居者に寄り添い、過去の出来事や昔の風習などの会話をしながら安心感や自信に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者様同士の関係を把握、一人一人の気 持ちを汲み取りながら入居者間の関係向上 の為、フロアの席替え、レクレーションの呼び かけ、散歩の声掛け等、入居者様同士が関 わり合い、支えあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人様、ご家族様との関係を断ち 切ることなく、面会や電話連絡にて経過を伺 い、必要に応じて相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	随時、一人一人の思いや暮らし方の希望、意 向の把握について聞き取りを行い、できる限 りのその方の求めに応じている。困難な場合 は、ご家族様と相談しながら本人本位に検討 している。	入居者毎の個別ケアチェック表にその方の情報を 記録している。本人の情報は入居契約時に、本人 や家族からホームでの暮らし方の意向を聴取して いる。現在、業務の効率化を図る為、記録の簡素 化に向け検討している。把握した情報は申し送り や職員会議で共有し、職員全員が入居者の思い に沿ったケアを実践できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所時、本人様、ご家族様から聞き取りを行 い、幼少期から現在に至るまでの生活歴や入 所までの経過等を個人別に記録し把握してい る。しかし最近では、本人様の生い立ちを知ら ないご家族様も多く見受けられ困難な場合があ る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態を個 人別ケア一覧表に記録。又、排泄記録、1日 2回の申し送り、日常記録(特変時の状況記 録)等により現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が記録するアセスメント表を毎月、ご家族様に報告している。毎月のユニット会議では、モニタリングを兼ねて開催している。又、現状の振り返りの中で、今後どうしていくことが望ましいのかを皆で考え、それらを次の支援に反映させている。	介護計画の様式改訂も適切に行っている。ユニット会議に諮った職員意見やアイデアは、まずは実施してみるという姿勢で、本人や家族の意見を反映し介護計画を立案している。アセスメントシートを基に、全職員でモニタリングを行い、必要に応じて看護師等の専門職より助言を得ながら介護計画を作成している。日々の実践や記録時に介護計画の内容が確認できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個人別ケア一覧表に記録、特別な変化や病院受診の際は日常記録に記録し、ユニット会議時に取り上げ、職員間で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的は、かかりつけ医の病院や専門医と連携を取り、本人様やご家族様の状況に答えている。又、日々の申し送り、月1回のユニット会議において、入居者様のニーズに応じて柔軟なサービスの検討、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校や保育園等、地域の特性を把握し、公的機関や各種団体等のそれぞれの地域資源を活用し入居者様一人一人にとって安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人様及びご家族様の希望に応じて、施設協力医及び入所以前からのかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームの近隣に協力医療機関があり、定期的な往診と夜間帯や緊急時でもすぐに連絡し対応できる態勢を整えている。入居者の健康状態に変化があった場合や定期受診以外の受診時には家族へ報告している。歯科医の往診もあり、入居者の状況に応じた口腔ケアの助言指導等が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	池田循環器科内科と医療連携体制をとっており、連携看護師と相談しながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。さらに、定期受診を行い、看護職と共に入居者様の体調管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際、安心して治療ができるよう、又、早期に退院できるよう、個人別に必要なファイルを構え、病院関係者との情報交換や相談を迅速かつ適切に行えるよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ、重度化した場合や終末期のあり方についてご本人様、ご家族様と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明し、ご本人様が終末期を迎えた場合には、主治医及び各関係者と連携を取り、チームで支援する体制を整えている。	看取りに関する指針、マニュアルを作成し、職員へ周知している。ホームでの看取り後は職員がエンゼルケアを行い、最期までその方の尊厳を守る姿勢で関わっている。ホームではターミナルケアに関する研修を行い、実際に看取りとなった際に心の準備とその方に寄り添った対応ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が入居者の急変や事故発生時に対応できるよう訓練している。連携看護師より応急手当や初期対応の指導を受け、又、看護師や医療関係との連携も円滑に行えるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練の中に昼夜問わず、あらゆる災害を想定した消防訓練を行政、消防署の協力のもと行い、入居者、全職員が避難訓練に参加している。又、緊急持ち出しファイルを作成し避難訓練時に持ち出している。	消防署の協力を得ながら夜間を想定した訓練を計画し、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの防災訓練を年2回行っている。火災通報装置にて職員全員に通知されるシステムがあり、防火手順マニュアルも整備し、職員間で連携を図っている。入居者の状況が分かる緊急時持ち出しファイルを作成し、有事に備え、食料品や日用品の備蓄を行っている。	有事における地域への協力体制については、運営推進会議で協力を呼び掛けているが、今後、地域の自治会や消防団等への協力を働き掛けることを期待したい。緊急時持ち出しファイルに関し、災害時に誰が持ち出すかを明確にしておくことを期待したい。現在、BCPの策定をすすめられており今後の策定や訓練への取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、尊厳を持って接し、常に誇りやプライバシーを損ねない声掛けを行うことに努めている。時には、方言を使って馴染みのある言葉でコミュニケーションをとっている。	職員は入職時に個人情報保護に関する誓約書にサインし秘密保持を誓約している。運営推進会議録など対外に示す書類上には入居者の個人名は記載しないよう留意している。申し送りや情報伝達の際に、周囲に入居者がいる時には入居者の名前を言わず、場所を変えるなど個人情報に配慮している。居室への入室時にはノックし、確認してから入室することを全職員が心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人の性格の理解に努め、本人様が日常生活の中で思いや希望を表せるよう声掛けや話し合いを行い、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、趣味や楽しみ、ゆっくり過ごす等、その方がその日をどのように過ごしたいのか、できる限りその方の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からお持ちのお洒落着や普段着をお持ち頂き、その人らしいお洒落を楽しまれている。又、定期的に施設に理容師に訪問してもらい髪を切っていて頂いたり、髭剃りをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に合わせ、食事が楽しみなものになるようメニューを変更したり、その人の病気や体調にあわせ、きめ細やかな食事を提供している。又、お盆拭きや食器拭き等簡単な後片付けを一緒に行っている。	食事は手づくりで職員が調理して提供している。訪問調査日は七夕の天の川と星の形を彩ったちらし寿司が食卓に並んだ。ホーム近隣の農家の方からサツマイモや玉ねぎなど畑で収穫した野菜の差し入れがあり、旬のものを調理して食事を提供している。事前に入居者の嗜好やアレルギーを把握し、配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好みと栄養バランスを考えながら、随時見直しを行いながら食事量や水分量を提供している。又、一人一人の状態や嚥下力、習慣に応じてきめ細やかな支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態に合わせ全介助、一部介助、見守り等本人様の口腔状態や力に応じたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を行い、一人一人の力や排泄パターンに合わせた支援、無理強いのない声掛けや残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	職員は排泄チェックシートに入居者個々の排泄状況を記入し、その方の排泄パターンに応じて、声掛けやトイレ誘導を行っている。失敗した場合は周囲に気づかれぬようさりげない声掛けにて対応している。本人の状態に応じてリハビリパンツやオムツを着用し、夜間帯等、必要に応じてポータブルトイレを居室に設け排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜中心で繊維質の多い食材を提供し、飲水については定時に水分補給をして頂き、時には個人に便秘の原因について説明を行っている。又、毎朝のラジオ体操や立ち上がり等のリハビリ体操で運動を行い、個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望の湯加減やタイミングに合わせて、できる限り本人様の希望に沿うような声掛け、支援を行っている。又、本人様の体調に合わせ、清拭や足浴等を行っている。	週2回の入浴を基本としている。本人が希望した場合は入浴日以外であっても入浴やシャワー浴など柔軟に対応している。ホームでシャンプーやボディーソープを準備しているが、本人の好みの品を持ち込むこともできる。皮膚疾患の有無などを確認し、必要に応じてマット交換や湯をオーバーフローさせている。車イスの方も浴槽に浸かれるよう介助し、安心して入浴できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や心身の状況、生活習慣に合わせ、居室で休まれる等、自由に休息されている。又、就寝も一人一人の生活習慣を把握し、その方に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用について学んでおり、わからない時は個人別ファイルを設け、いつでも管理表を見て学べるようになっている。又、一人一人の氏名を呼んで、その方の顔を確認し服用、間違いがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を把握し、お盆拭き、洗濯物たたみ等の役割、複数で歌を唄ったり、好きなテレビ鑑賞、計算ドリル、パズル等の楽しみ、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍における不要不休の外出は控えていたが、天気の良い日は散歩。駐車場でレクリエーションを行ったり、おやつを食べて頂いたりしている。	コロナ禍により外出を自粛していたが、近隣中学校の部活動を見学に出掛けたり、入居者の状態に応じて毎月理容室へ同行するなど可能な範囲で支援している。駐車場でレクリエーションを行ったり、おやつを食べるなど、コロナ禍でもホーム内に閉じこもらないように工夫している。管理者はコロナ禍の収束を見据え、地域の花火大会(浜んこ祭り)の見学等、外出について本社と協議している。今後は外出の機会を増していく方針である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にお金は施設で預かっているが、数名の方は個別にお金を管理されており安心されている。職員も入居者様がお金を持っておきたい理由を理解して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話したいと希望があった場合には、支援を行い、聞き取りができない方には、職員が仲介に入り支援を行っている。又、携帯電話を本人様に持たせているご家族もある。手紙については、やり取りができるようお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節に応じた行事を行い飾り付けを行ったりし季節を感じて頂けるよう工夫をしている。又、室温や換気等の空調管理やカーテン等の調節を行い居心地良く過ごして頂けるよう支援している。	共用空間は毎朝換気を実施し、清潔が保たれ、居心地の良い空間を整備している。訪問調査時は七夕の日と重なり、壁面には七夕の飾り付けが施されていた。時季に応じて入居者と職員が一緒に作成した季節の飾り付けを行い、入居者は居心地よく思いおもいに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で同じテーブルでの会話や工作される為の場所の設定、テレビを観るために椅子をテレビの前に置いたり等自由に過ごして頂けるよう支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人様又はご家族様に持ち込みの制限がないこととお話しし、使い慣れたタンスや鉢植え、子供の家族や孫の写真を持ち込まれ本人様が居心地良く過ごされるよう工夫している。	居室は職員が毎日次亜塩素酸水等を使用し、要所の拭き掃除やモップを用いて清掃を行っている。居室は入居者本人が使い慣れたものを持ち込み、動線を考慮した配置で、安全に居心地良く過ごせるよう努めている。	清潔感のある居室であるが、本人の馴染みの品の持ち込み状況は、居室によって差異が窺える。特に殺風景な居室となっている場合は、本人の状態を判断しながら家族に対し使い慣れたものや好みのものの持ち込みを引き続き促すことを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車椅子で自由に行き来ができ、廊下には手すりを設置し安全に移動ができる。又、必要に応じて居室の扉に大きく名前を貼る等配慮を行い、自立した生活が送れるよう支援している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401228		
法人名	株式会社ホープブライト		
事業所名	グループホーム南風		
所在地	長崎県南島原市有家町山川337		
自己評価作成日	令和5年5月3日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年7月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、入居者様に対して、まず第一に清潔感があり、生活しやすい住環境を提供しております。朝礼の中で、「挨拶と掃除、身につけよう整理整頓、社内・外の美化は自分から」という会社理念を全職員で唱和しております。個々の健康管理を始め、身体能力や心身の状態に応じて効果的な個人ケアを行い、自己決定を尊重した自立支援に向けた取り組みを行っています。例えば、日常生活動作面において、時間はかかっても、自分でできることは自分で行って頂いております。一人一人の入居者様に尊厳のある日々を送って頂けるよう支援し「入居者の個性を尊重し、QOL(生活の質)を高めることにより、生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」ことを施設理念に掲げ、「その人のペースに合わせてゆっくりと」を介護目標とし、全ての入居者様が毎日笑顔で過ごして頂けるよう職員一同、心のこもった介護をさせて頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」を掲げ管理者と職員は、会議や日々のミーティングを通し地域の一員としてその人らしく関わりを保てるグループホームとして実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、近隣の保育園から餅を頂いたり、夏祭りに参加していた。現在は、散歩中の保育園児と会話したり、散歩に出かけた際に出会う方や、施設周辺の畑で農作業中の方と挨拶を交わしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られるご家族様やご親族様、友人の方々や、近隣の方々との交流、2ヶ月に1回の運営推進会議などにおいて、事業所として認知症の人の理解や支援方法をわかりやすく伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回実施し、入居者様やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告に対し、各委員、ご家族代表から積極的なご意見や質問を頂き、話し合いを通してサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者様とは、日頃から連絡を密に取り、運営推進会議にも参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、独自の身体拘束防止マニュアルが定めてあり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会やミーティング等で随時職員周知を行い、職員全員が正しく理解している。運営推進会議においても議題に挙げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で、高齢者虐待防止の研修を行い、虐待防止の観点から、職員間で互いに虐待が起きる理由をディスカッションしている。又、入居者側の気持ちを考えることで職員倫理の自己啓発と虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員に周知徹底を行っている。入居者一人一人の人権尊重と多様性の時代である事を伝えると共に、入居者主体のケアの重要性を意識した支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等の際は、理解しやすい言葉で十分な説明を行い、入居者様やご家族様等の不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図り、契約を締結している。又、解約の際も同様に、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回のユニット会議におけるアセスメントを家族様へ説明する中で、意見や要望をお伺いし、又ご意見箱の設置、苦情相談窓口やその他の情報を掲示し、意見や要望を運営に反映させる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、1日2回の申し送り時に運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、代表者へ繋げ運営に反映させている。又、根拠や背景に何があるのかを相互が理解し認め合うことで風通しの良い職場環境の改善にも繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況、研修会への参加状況の把握に務め、人員確保や労働時間の改善、勤務交代等職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の資格取得の奨励や研修などを計画的に行い、必要な研修には勤務内や有給休暇をあて研修を受ける機会を確保している。又、経験を多く積んだ職員が新人職員を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は島原半島認知症対応型共同生活介護連絡協議会に加入し、同業者同士のネットワークづくりや意見交換、勉強会を行い、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望時、本人様と面会する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、できる限り本人の安心が確保できる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、ご家族様と面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、十分に説明を行い、入居希望者の快い環境作りやご家族の安心が確保できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様と面談を行い、その方に最良と思われる支援を検討し、その時必要とされる支援を見極め援助、本人様、ご家族様の希望に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の尊重を第一に考え、先人の知恵や料理の美味しい食べ方、植物の名前や育て方等を教えて頂いたり、食後のお盆、食器拭きや洗濯物たたみ等を一緒に行い、職員も入居者様と同じ目線に立ち、喜怒哀楽をともにし、支えあえる関係を持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の施設での生活状況や相談事、悩み事等をご家族様へ報告し、互いに離れた場所で生活されていても本人様とご家族様の思い、関係を大切にしながら、共に本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所への外出、交流機会の減少は否めないが、回想法や入居者様に寄り添い共感し傾聴することで、生きる喜びや楽しみ、生きがい作りに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握、一人一人の気持ちを汲み取りながら入居者間の関係向上の為、フロアの席替え、レクレーションの呼びかけ、散歩の声掛け等、入居者様同士が関わり合い、支えあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人様、ご家族様との関係を断ち切ることなく、面会や電話連絡にて経過を伺い、必要に応じて相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握について聞き取りを行い、できる限りのその方の求めに応じている。困難な場合は、ご家族様と相談しながら本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人様、ご家族様から聞き取りを行い、幼少期から現在に至るまでの生活歴や入所までの経過等を個人別に記録し把握している。しかし最近では、本人様の生い立ちを知らないご家族様も多く見受けられ困難な場合がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態を個人別ケア一覧表に記録。又、排泄記録、1日2回の申し送り、日常記録(特変時の状況記録)等により現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が記録するアセスメント表を毎月、ご家族様に報告している。毎月のユニット会議では、モニタリングを兼ねて開催している。又、現状の振り返りの中で、今後どうしていくことが望ましいのかを皆で考え、それらを次の支援に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個人別ケア一覧表に記録、特別な変化や病院受診の際は日常記録に記録し、ユニット会議時に取り上げ、職員間で情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的は、かかりつけ医の病院や専門医と連携を取り、本人様やご家族様の状況に答えている。又、日々の申し送り、月1回のユニット会議において、入居者様のニーズに応じて柔軟なサービスの検討、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校や保育園等、地域の特性を把握し、公的機関や各種団体等のそれぞれの地域資源を活用し入居者様一人一人にとって安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人様及びご家族様の希望に応じて、施設協力医及び入所以前からのかかりつけ医と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	池田循環器科内科と医療連携体制をとっており、連携看護師と相談しながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。さらに、定期受診を行い、看護職と共に入居者様の体調管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際、安心して治療ができるよう、又、早期に退院できるよう、個人別に必要なファイルを構え、病院関係者との情報交換や相談を迅速かつ適切に行えるよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ、重度化した場合や終末期のあり方についてご本人様、ご家族様と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明し、ご本人様が終末期を迎えた場合には、主治医及び各関係者と連携を取り、チームで支援する体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が入居者の急変や事故発生時に対応できるよう訓練している。連携看護師より応急手当や初期対応の指導を受け、又、看護師や医療関係との連携も円滑に行えるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練の中に昼夜問わず、あらゆる災害を想定した消防訓練を行政、消防署の協力のもと行い、入居者、全職員が避難訓練に参加している。又、緊急持ち出しファイルを作成し避難訓練時に持ち出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、尊厳を持って接し、常に誇りやプライバシーを損ねない声掛けを行うことに努めている。時には、方言を使って馴染みのある言葉でコミュニケーションをとっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人の性格の理解に努め、本人様が日常生活の中で思いや希望を表せるよう声掛けや話し合いを行い、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、趣味や楽しみ、ゆっくり過ごす等、その方がその日をどのように過ごしたいのか、できる限りその方の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からお持ちのお洒落着や普段着をお持ち頂き、その人らしいお洒落を楽しまれている。又、定期的に施設に理容師に訪問してもらい髪を切っていて頂いたり、髭剃りをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に合わせ、食事が楽しみなものになるようメニューを変更したり、その人の病気や体調にあわせ、きめ細やかな食事を提供している。又、お盆拭きや食器拭き等簡単な後片付けを一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の好みと栄養バランスを考えながら、随時見直しを行いながら食事量や水分量を提供している。又、一人一人の状態や嚥下力、習慣に応じてきめ細やかな支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態に合わせ全介助、一部介助、見守り等本人様の口腔状態や力に応じたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を行い、一人一人の力や排泄パターンに合わせた支援、無理強いのない声掛けや残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜中心で繊維質の多い食材を提供し、飲水については定時に水分補給をして頂き、時には個人に便秘の原因について説明を行っている。又、毎朝のラジオ体操や立ち上がり等のリハビリ体操で運動を行い、個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望の湯加減やタイミングに合わせて、できる限り本人様の希望に沿うような声掛け、支援を行っている。又、本人様の体調に合わせ、清拭や足浴等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や心身の状況、生活習慣に合わせ、居室で休まれる等、自由に休息されている。又、就寝も一人一人の生活習慣を把握し、その方に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用について学んでおり、わからない時は個人別ファイルを設け、いつでも管理表を見て学べるようになっている。又、一人一人の氏名を呼んで、その方の顔を確認し服用、間違いがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を把握し、お盆拭き、洗濯物たたみ等の役割、複数で歌を唄ったり、好きなテレビ鑑賞、計算ドリル、パズル等の楽しみ、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍における不要不休の外出は控えていたが、天気が良い日は散歩。駐車場でレクリエーションを行ったり、おやつを食べて頂いたりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は施設で預かっているが、数名の方は個別にお金を管理されており安心されている。職員も入居者様がお金を持っておきたい理由を理解して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話したいと希望があった場合には、支援を行い、聞き取りができない方には、職員が仲介に入り支援を行っている。又、携帯電話を本人様に持たせているご家族もある。手紙については、やり取りができるようお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節に応じた行事を行い飾り付けを行ったりし季節を感じて頂けるよう工夫をしている。又、室温や換気等の空調管理やカーテン等の調節を行い居心地良く過ごして頂けるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士で同じテーブルでの会話や工作される為の場所の設定、テレビを観るために椅子をテレビの前に置いたり等自由に過ごして頂けるよう支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人様又はご家族様に持ち込みの制限がないこととお話しし、使い慣れたタンスや鉢植え、子供の家族や孫の写真を持ち込まれ本人様が居心地良く過ごされるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車椅子で自由に行き来ができ、廊下には手すりを設置し安全に移動ができる。又、必要に応じて居室の扉に大きく名前を貼る等配慮を行い、自立した生活が送れるよう支援している。		